

## 教会訪問を続けています

主事 齊藤弘司

ご挨拶と教会の様子をお聞かせいただくために始まった教会訪問。お陰様で6月3日の防府教会を皮切りに、17教会の訪問が実現しました（7月末現在）。貴重なお時間を割いて迎えてくださった各教会の皆様方へ改めて感謝申し上げます。

教会訪問を通して気付かされたことは、足を運んでその教会に身を置いて伝わるものがたくさんあるんだということ。顔と顔を合わせることの大切さはもとより、教会に行くと、会堂の雰囲気・掲示板の使い方・週報の記事など、その教会が何に力を注いでおられるかが無言のうちに伝わってまいります。

今回のセンターニュースは、教会訪問特集として5つの教会をご紹介します。各教会の様子をお読みくださり、お祈りに覚えていただけたら幸いに存じます。山田雄次運営委員長と私の二人三脚で、教会訪問はまだまだ続きます。引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。



### ⑤ 豊前教会・・7月1日（水）

6月28日（日）に教会組織・本山大輔牧師就任感謝礼拝を行ったばかりの豊前教会。澄んだ音色が印象的だったジョイ・ハンドベルクワイヤは現在、小田ひかり姉（シオン山）のご指導の下、秋のハンドベル九州フェスティバル出演を目指して練習に励んでおられるそうです。

本山牧師が来られてから、徐々に礼拝出席者が増えているという変化を感謝しつつ、新来者・求道者を迎えるということについて、メンバー全員が意識的に心配りに努めておられるそうです。

都市計画道路の建設が始まり現在、正面入り口の位置変更を計画。道路開通後には、看板等の整備も予定されているとのこと。

様々な変化にチャレンジしつつ、元気に歩み始めた豊前教会。11月の連盟定期総会では豊前教会の連盟加盟が審議されます。私たちも覚えて祈りを合わせていきましょう。



## ⑥ 別府国際教会 ..7月1日 (水)



別府国際教会の大きな特徴としてバイリンガル礼拝があります。地域柄、外国人クリスチャンとの出会いを絶えず与えられており、言葉や習慣を越えた主にある交わりが保たれています。メンバーの帰国に際しては、ここから遣わされていく働き人を教会全体で祈りをもって送り出しているとのこと。その事柄はまさに、マタイの大宣教命令と重なります。2013年度から向こう10年間の中長期計画を立てるにあたって、その中心に大宣教命令を据えたそうです。

今年から西南学院大学神学部に遠藤光子神学生を送り出していることは、大きな喜びとなっている様子でした。別府国際教会は西南神学部から決して近距離にはありませんが、これまで多くの研修神学生を受け入れてきました。吉田牧師は、「北九州地方連合の教会を研修先として選ぶ神学生がもっと増えてほしい」とお話されました。

同じ地区の大分教会・臼杵教会との交流にも積極的に取り組んでおられます。6月の神学校週間には大分教会に地区3教会の壮年が集まって親睦会が開かれたとのこと。

別府国際教会の様々な働きから、教会が元気になるとはどういうことを学ばせていただきました。



## ⑦ 企救教会 ..7月6日 (月)



企救教会は3年前に新会堂が与えられ、アイボリーを基調とした心落ち着く会堂でお話を伺いました。

今から39年前、小倉南区の長行（おさゆき）地区の一軒のプレハブ家屋で始まった集会。それが企救教会の原点であるとのこと。原田牧師が着任された27年前に現会堂の土地を購入。以来、地域に根差した伝道活動をしてこられたそうです。

毎月1回行われている「ナオミの会」は、大人のための絵本の読み聞かせの会。原田牧師が選ばれた、とっておきの絵本の読み聞かせに続いて、その絵本に関連した聖書の学びのひとときが持たれるというユニークな集会です。興味をお持ちの教会の皆様へ、原田牧師より「見学を歓迎します！」とのお言葉をいただきました。

メンバーの中には家族の介護に携わっていらっしゃる方が複数おられ、礼拝後のお交わりは、期せずして互いの状況や気持ちを分かち合う時となっているそうです。

連合との関係を保ちながら、企救教会として力になれることがあれば喜んで協力していきたいとお話くださり、私自身大いに励まされました。



## ⑧ 若松教会 ..7月8日(水)



九州最初のバプテスト講義所としてスタートした若松教会は、今年創立 125 周年を迎える歴史ある教会です。

聖歌隊の活動がとても盛んで、本隊の他に児童聖歌隊、壮年聖歌隊があり、交替で主日礼拝の奉仕を担っておられるそうです。

若松区では5つのキリスト教会(超教派)から成る「若松連合」が組織されていて、これも 100 年近い歴史があるとのこと。活動は、毎月第4火曜日夜の定例祈祷会。さらには、若松市民クリスマスと合同野外礼拝を隔年交互に行っているそうです。

地域向けに発行している『アルトス』という教会機関紙は毎回5千部を発行。新聞折り込みも活用して広く地域に配布しているとのこと。高塔山のカップがイメージキャラクターです。前号でご紹介した富野教会の教会機関紙『みくにのたね』は、この『アルトス』にヒントを得たと伺いました。

毎年6月に開催される若松教会の一大行事「あじさいコンサート」は、今年第11回を数え、若松高校の生徒さんが出演されたそうです。この日に合わせて教会バザーも催され、来場された方々にとっても喜ばれているとのことでした。

教会の現状として、奉仕者の年齢が上がってきていることが挙げられました。地域に仕える教会であり続けるために、センターとして協働できることは何か、一緒に考えていきたいと思ひます。

## ⑨ 苅田教会 ..7月13日(月)



今年度より佐藤清一牧師をお迎えして、新しい歩みを始めた苅田教会。

4月26日の計画総会では、バプテスト教会として歩むことを再確認した上で、「みんなで作る教会」を形成していく方向性が共有されたとのこと。将来的には組織化を目指しつつも、今は「みんなで」という参加意識を大切にしていきたいと、教会主事の児玉尚文兄がお話されました。

5月に佐藤牧師が体調を崩され入院されたときには、主日礼拝の中で出席者全員の切なる祈りが捧げられたそうです。祈りが聴かれ、予定通りに牧師就任式がもてたことは、教会にとって大きな励みとなったそうです。

苅田教会は一步プログラムに参加していなかったため、パートナーとなる教会をこれから求めていきたいとのこと。

佐藤牧師は「一つ一つ形にしていくことで、骨太の教会になることを目指したい」との決意を話されました。土曜日の祈祷会を教会の総意で水曜日に変更するなど、既に新しい動きが始まっています。

苅田教会に与えられた会堂が用いられ、集うメンバーが起こされるように、近隣の教会と協働していきたい。苅田教会の希望に満ちたビジョンを伺うことができました。



## ■教会アンケートの中間報告

6月にお願いした教会アンケート。7月末現在で16教会からの回答をいただきました。お忙しい中ご協力ありがとうございました。簡単な中間報告をいたします。

今後のビジョンとして数多く挙げられていたのは「ミッションステートメントの作成」。宣教支援センターへの期待として「教会活動の外部評価」「信仰告白の見直し支援」などがありました。無牧師の教会からは「牧師招聘」も挙げられています。将来の幻としては、3教会が「伝道所開設」を挙げておられます。

教会にとって一番うれしいことは「毎週の礼拝が守られていること」「交わりの一致」「バプテスマ式」「結婚式」「教会組織の実現」「新会堂建築」「記念誌発行」など。一番しんどいことは「教会員(家族)の召天」「無牧師の時」「教会の分裂」「教勢の伸び悩み」などの回答がありました。

教会アンケートのご回答を引き続きお待ちしております。まだお済みでない教会の皆様、どうぞご協力をお願い申し上げます。



## ■お知らせ

宣教支援センター開所式  
並びに齊藤弘司主事就任式

日時 9月20日(日) 15:30

場所 東八幡キリスト教会

300人が集う開所式に、各教会代表の方のみならず、メンバーの皆様がこぞって集ってくださることを切に望んでおります! 宜しくお願いします。

## ■主事の予定

- 8/10(月) 中間教会訪問
- 12(水) 小野田教会訪問  
門司教会訪問
- 15(土) 連合8・15集会出席
- 19(水) 下関教会訪問  
小倉教会訪問
- 21(金) 全国壮年大会(東京)出席  
(~22日まで)
- 24(月) 光教会訪問
- 26(水) 高須教会訪問



## ■編集後記

来年度の全国壮年大会 in 北九州。私も実行委員会に参加しております。8/21~22の全国壮年大会(東京)には、北九州連合から約10名の壮年が出席し、梅木連合壮年会長を中心に、来年度の北九州開催をアピールしてまいります。大会の交わりが祝われますようにお祈りください。

(齊藤)

発行日	2015年8月7日
発行責任者	山田 雄次
発行所	
〒805-0015	
北九州市八幡東区荒生田 2-1-40	
東八幡キリスト教会内	
連合宣教支援センター事務局	
TEL & FAX (093)651-6669	